

北九州市立食肉センターについて

1 と畜場とは

- 食用に供する目的で、と畜場法に基づき、獣畜(牛、馬、豚、めん羊及び山羊)をとさつ・解体するために設置された施設。
- 本市食肉センターでは、施設及び設備の維持管理や、と畜検査員による食肉の衛生検査を行っている。
- と畜場法の規定により、と畜場は、都道府県知事の許可を受けなければ設置してはならず、と畜場の設置者又は管理者は、と畜場の衛生維持に努め、また、正当な理由がなければ、獣畜のとさつ・解体のためのと畜場の使用又は獣畜のとさつ・解体を拒んではならない。

2 施設の概要

所在地 北九州市小倉北区末広二丁目3番7号
敷地面積 12,252㎡ (空地部を含む、20,616㎡)
床面積 8,032㎡ (鉄筋コンクリート3階建)
開設年月 昭和63年7月

3 処理能力

牛:100頭/日、豚:600頭/日、(その他:馬、子牛、山羊、羊)

4 施設の運営形態

- (1)施設の設置、整備及び運営は北九州市が実施している。(公設直営方式)
- (2)と畜・解体及び内臓洗い作業等は、専門業者が請負方式で実施している。
(専門業者職員数:パート職員を含め約50名)

5 利用業者の特徴

当施設は、市場機能を持たない食肉センターであり、利用業者が、生産農家や生体市場から家畜を集荷し、と畜後は、自己の販売ルートで食肉を流通させている。主要業者4社で90%以上を占める(牛2社94%、豚2社99%)。

6 牛・豚部分肉加工

牛の集荷対策及び近代的な食肉流通体制整備の観点から、平成16年度に市が食肉センター敷地内に部分肉加工所を設置し、民間会社が運営を行っている。(公設民営方式) 処理能力 牛60頭/日

令和元年3月からの豚の増頭に対応するため、XXXXXXXXXXが豚部分肉加工場を整備。

北九州市食肉センター特別会計予算・決算

(収入)

(単位:千円)

名称	R元決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
食肉センター使用料	114,345	132,663	133,704	141,087	138,197	154,552
食肉センター使用料	67,276	81,443	79,899	84,753	85,185	89,101
冷蔵庫使用料	21,591	25,591	28,129	31,257	27,924	40,365
土地使用料	3,651	3,676	3,795	3,196	3,207	3,206
建物使用料	2,331	2,279	2,207	2,207	2,207	2,206
部分肉加工所使用料	19,496	19,674	19,674	19,674	19,674	19,674
財産貸付使用料	0	0	587	587	587	586
財産貸付・土地使用料	0	0	454	454	454	453
財産貸付・建物使用料	0	0	133	133	133	133
一般会計繰入金	148,535	138,535	164,775	160,706	182,857	177,532
前年度繰越金	87,231	72,579	63,938	33,456	10,319	10
諸収入	36,065	36,237	23,809	29,094	27,266	29,320
貸付金	10,000	10,000	0	0	0	0
雑入	26,065	26,237	23,809	29,094	27,266	29,320
市債				6,000	0	0
合計	386,176	380,014	386,813	370,930	359,226	362,000

(支出)

名称	R元決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6予算
人件費	16,262	16,111	18,351	18,822	18,710	19,901
報償費	0	0	0	0	0	0
旅費	24	0	0	6	6	58
需用費	119,401	119,447	131,411	159,822	131,890	160,363
食料費	0	0	0	0	0	0
修繕料(物件)	1,241	1,132	2,219	1,381	1,025	1,887
修繕料(維持補修)	17,422	14,795	20,000	26,553	17,274	15,463
その他需用費	100,738	103,520	109,192	131,888	113,591	143,013
役務費	162	155	166	166	183	239
保険料	125	149	164	164	181	185
その他役務費	37	6	2	2	2	54
委託料	121,675	127,575	144,946	131,071	151,074	149,230
使用料及び賃借料	148	148	151	162	188	226
工事請負費	842	3,507	4,584	209	4,479	0
原材料費	21	0	0	0	0	30
備品購入費	6,232	919	3,380	3,294	4,171	1,486
一般備品費	0	225	0	25	0	316
機械器具費	6,232	694	3,380	3,269	4,171	1,170
負担金	120	140	140	140	140	148
貸付金	10,000	10,000	0	0	0	0
公課費	567	0	5	1,164	735	5,373
繰出金	38,143	38,074	50,223	45,755	35,735	24,746
予備費	0	0	0	0	0	200
合計	313,597	316,076	353,357	360,611	347,312	362,000
収支(翌年度繰越金)	72,579	63,938	33,456	10,319	11,914	0

一般会計繰入金の年度別推移

(単位:千円)

年 度	一般会計からの繰入金			備 考
		公債償還金	特別会計補填金	
昭和62	16,399	16,399	(不 明)	起債:センター建設
63	94,961	94,961	(不 明)	起債:センター建設
平成元年	411,897	109,870	302,027	
2	325,337	109,870	215,467	
3	338,803	109,870	228,933	
4	313,284	130,233	183,051	
5	470,521	216,972	253,549	
6	685,093	216,972	468,121	
7	470,296	216,972	253,324	
8	466,850	216,972	249,878	
9	439,166	216,972	222,194	
10	455,719	216,972	238,747	
11	416,388	216,972	199,416	
12	323,241	216,972	106,269	起債:設備改修
13	444,117	218,271	225,846	起債:と畜場整備事業
14	453,523	219,148	234,375	
15	464,635	230,688	233,947	起債:部分肉工場建設
16	454,791	241,191	213,600	起債:と畜場整備
17	444,619	245,932	198,687	
18	421,775	246,059	175,716	
19	362,442	209,216	153,226	
20	195,259	46,810	148,449	
21	195,112	49,611	145,501	
22	191,109	51,421	139,688	
23	175,132	38,455	136,678	
24	165,261	28,676	136,585	
25	166,242	28,330	137,912	起債:食肉センター老朽化対策
26	216,091	29,573	186,518	起債:と畜場整備事業
27	216,029	31,078	184,951	起債:と畜場整備事業,食肉センター老朽化対策
28	180,839	31,768	149,071	起債:と畜場整備事業
29	180,167	31,716	148,451	
30	153,207	34,960	118,247	
令和元年	148,535	38,144	110,391	
2	138,535	38,075	100,460	
3	164,775	50,225	114,550	
4	160,706	45,755	114,951	起債:と畜場整備事業
5	182,857	35,735	147,122	

維持補修費等の推移及び主な改修内容

(円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
修繕料 (物件費)	928,702	419,580	1,241,731	1,131,900	2,219,140	1,381,006	1,025,000
修繕料 (維持補修費)	14,064,732	12,762,626	17,421,670	14,795,000	19,999,870	26,552,900	17,274,000
計	14,993,434	13,182,206	18,663,401	15,926,900	22,219,010	27,933,906	18,299,000

(千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
主な 改修内容	赤物リフトドラム取替	牛枝肉インクライン修繕	牛枝肉搬出コンベアベルト修繕 (2,147)	固形分離機修理 (2,426)	解体室給排水設備等改修 (2,426)	空調機据替 (2,497)	部分肉加工所空調断熱材取替 (2,497)
	冷凍機修理	冷凍機修理	冷凍機修理 (1,738)	縦型スクリーナー修繕 (2,076)	解体室手洗設備等改修 (2,159)	懸肉室No1, No3ドア修繕 (2,498)	No1給水ポンプ及びモーター更新 (2,497)
	牛内臓検査コンベア修繕	し渣コンベア修理	冷蔵庫扉修繕 (1,506)	廃水設備フロースクレーパー修繕 (1,881)	冷凍機修理 (1,579)	牛係留所庇屋根改修 (2,090)	豚係留所吊り金物改修 (1,658)

食肉センター従事者一覧

令和6年5月23日現在

区 分	業務内容	企業名	従事者		
と畜・解体作業	と畜・解体作業		19名	48名	107名
	牛皮処理		3名		
	牛・内臓・頭処理		24名		
	豚・内臓処理		2名		
家畜搬入業者	牛		13名	18名	
	豚		5名		
部分肉加工	部分肉加工		23名 ¹⁾	53名	
			12名 ²⁾		
			18名		
精肉加工	精肉加工		5名 ³⁾	5名	
卸売業者	牛内臓卸売業者		1名	2名	
	豚内臓卸売業者		0名		
	豚頭肉・枝肉卸売業者		1名		
市の委託業者	中央監視室制御		6名	24名	
	・冷蔵庫入出庫		11名		
	・浄化槽運転管理		3名		
	特定危険部位運搬	4名			
	産業廃棄物収集・運搬	4名			
動物油脂化成原料取扱い		4名	4名		
食肉業者事務所職員		27名 ⁴⁾	30名		
		3名			
牛枝肉格付員		1名 ⁵⁾	1名		
合 計			167名 (*再掲18名除く)		

* 〇〇の従事者欄の2)の12名と3)の5名は、4)27名を含む

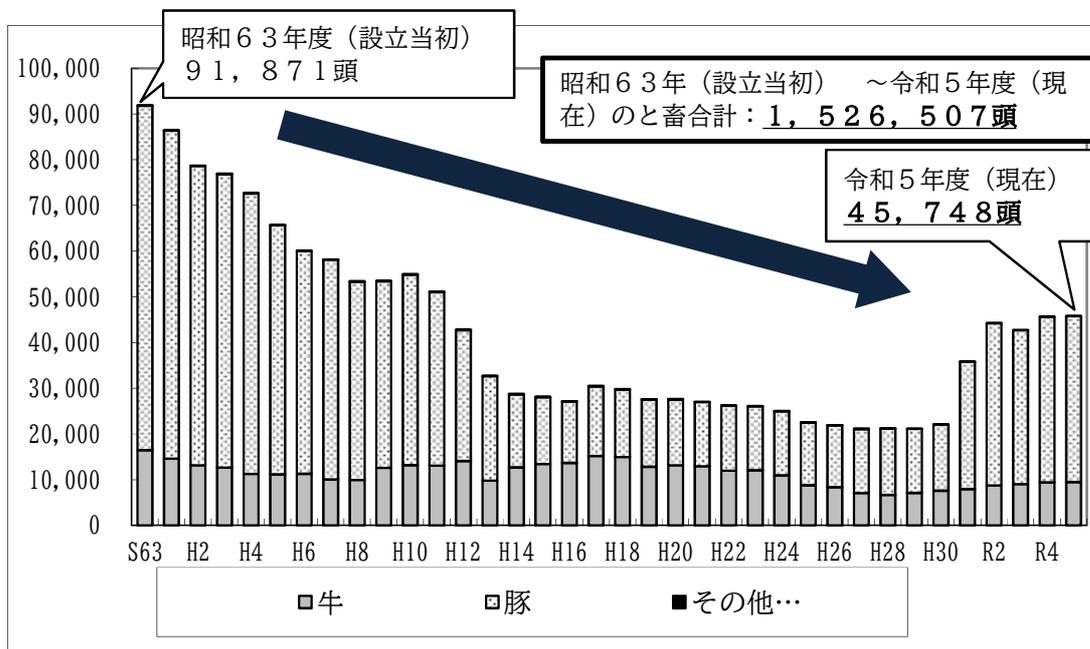
* 牛枝肉格付員の従事者欄の5)の1名は、〇〇の兼職のため1)を含む

北九州市職員	施設管理	3名	13名
	検査員	10名	

* 市職員に所長を入れていない

と畜頭数の推移

年度	と畜頭数(単位:頭)			計
	牛	豚	その他 (馬、子牛等)	
S63	16,456	75,359	56	91,871
H1	14,597	71,781	62	86,440
H2	13,133	65,508	56	78,697
H3	12,660	64,184	84	76,928
H4	11,262	61,335	77	72,674
H5	11,149	54,509	75	65,733
H6	11,294	48,726	117	60,137
H7	10,024	48,091	81	58,196
H8	9,941	43,394	81	53,416
H9	12,583	40,824	67	53,474
H10	13,180	41,703	60	54,943
H11	13,074	37,958	65	51,097
H12	14,068	28,660	52	42,780
H13	9,772	22,875	47	32,694
H14	12,679	15,999	49	28,727
H15	13,401	14,644	35	28,080
H16	13,660	13,453	26	27,139
H17	15,160	15,279	30	30,469
H18	14,960	14,775	21	29,756
H19	12,812	14,726	25	27,563
H20	13,138	14,437	31	27,606
H21	12,928	14,054	8	26,990
H22	11,951	14,229	10	26,190
H23	12,060	13,985	14	26,059
H24	10,953	14,007	12	24,972
H25	8,758	13,749	8	22,515
H26	8,371	13,509	9	21,889
H27	7,071	14,009	8	21,088
H28	6,658	14,520	8	21,186
H29	7,109	13,989	8	21,106
H30	7,579	14,493	4	22,076
R1	7,922	27,868	2	35,792
R2	8,752	35,455	2	44,209
R3	9,024	33,666	2	42,692
R4	9,402	36,172	1	45,575
R5	9,487	36,260	1	45,748
合計	407,028	1,118,185	1,294	1,526,507



搬入業者別と畜頭数及び出荷地別と畜頭数

(1) 搬入業者別と畜頭数

○牛（子牛を含む）

No.	搬入業者名	所在地	と畜頭数					
			R1	R2	R3	R4	R5	
1		北九州市	4,069	4,986	5,035	5,614	5,928	62%
2		福岡県遠賀町	3,138	3,084	3,293	3,197	3,048	32%
3		大分県中津市	243	211	227	179	170	2%
4		福岡県久山町	122	145	138	60	0	
5		山口県萩市	136	117	129	143	139	1%
6		福岡県鞍手町	81	83	81	84	83	1%
7		山口県周南市	46	48	38	37	39	0.4%
8		北九州市	13	8	20	12	13	0.1%
9		北九州市	15	16	17	16	9	0.1%
10		山口県萩市	18	16	14	21	19	0.2%
11		福岡県みやこ町	14	10	12	19	21	0.2%
12		福岡県築城町	10	11	11	10	10	0.1%
13		山口県下関市	8	9	7	10	8	0.1%
14		大分県中津市	0	3	2	1	0	
15		福岡県宮若市	9	6	0	0	0	
16		山口県山口市	1	0	1	0	0	
17		山口県山口市	0	0	0	0	1	
合計			7,923	8,753	9,025	9,403	9,488	100%

○豚

No.	搬入業者名	所在地	と畜頭数					
			R1	R2	R3	R4	R5	
1		山口県周南市	12,595	19,821	17,528	20,410	20,569	57%
2		福岡県苅田町	15,260	15,618	16,109	15,732	15,653	43%
3		福岡県宗像市	13	16	17	23	16	
4		福岡県宗像市	0	0	11	0	10	
5		山口県長門市	0	0	1	6	12	
6		福岡県宗像市	0	0	0	1	0	
合計			27,868	35,455	33,666	36,172	36,260	100%

(2) 出荷地別と畜頭数

○牛（子牛を含む）

年度	北海道	兵庫	岡山	山口	福岡	市内	大分	佐賀	熊本	長崎	宮崎	鹿児島	沖縄	計
R1	1,528	124	708	320	1,307	3	822	247	1,121	293	36	1,417	0	7,923
R2	1,456	32	732	268	1,142	1	934	346	1,913	454	36	1,440	0	8,753
R3	1,646	0	732	317	1,093	2	992	291	1,604	603	33	1,678	36	9,025
R4	1,590	0	755	348	1,255	2	1,306	227	1,722	502	24	1,578	96	9,403
R5	1,566	0	672	335	1,432	5	989	417	2,180	273	0	1,624	0	9,488
	17%		7%	4%	15%		10%	4%	23%	3%	0.0%	17%	0%	100%

○豚

年度	福岡	山口	計
R1	15,273	12,595	27,868
R2	15,634	19,821	35,455
R3	16,136	17,530	33,666
R4	15,756	20,416	36,172
R5	15,679	20,581	36,260
	43%	57%	100%

ステークホルダー関係図・商流分析（R3年度）

この資料には、食肉センターに係る事業者等に関する取引先や売上状況等の情報が多分に含まれており、公にすることにより、当該事業者の権利、競争上の地位、その他正当な利益を害するおそれがあるため、掲載を差し控えさせていただきます。

主な利用者一覧

業者名	所在	専門	飼養業者	搬入業者 卸業者	副産物 処理業者	部分肉 加工業者
	市外	豚	○	○	×	×
	市外	牛	○	×	×	×
	市外	牛	○	○	×	×
	市外	牛	○	○	×	×
	市内	牛	×	○	△	○
	市内	牛	×	○	×	×
	市内	牛	×	○	×	×
	市外	豚	×	○	×	×
	市外	豚	×	○	×	× (自社)
	市外	豚	×	△ (卸のみ)	×	○
	市内	牛	×	×	○	×
	市内	豚	×	×	○	×
	市内	牛	×	×	○	×
	市外	油脂	×	×	○	×
市内	牛	×	×	○	×	

と畜場リスト(政令指定都市)

令和5年4月1日現在

政令市	名称	設置者	運営者	運営形態	市場併設	開設年	換算頭数
北九州市	北九州市立食肉センター	北九州市長	北九州市	○直営	－	1988	1,000
札幌市	なし						
仙台市	仙台市ミートプラント	仙台市長	仙台中央食肉卸売市場(株)	●民営	有	1975	1,750
さいたま市	さいたま市と畜場	さいたま市長	さいたま市	○直営	有	1961	2,000
千葉市	なし						
横浜市	横浜市中心と畜場	横浜市長	横浜市	○直営	有	1959	1,220
川崎市	なし						
相模原市	なし						
新潟市	新潟市食肉センター	新潟市長	(公財)新潟ミートプラント	▲指定管理	－	1993	1,020
静岡市	なし						
浜松市	浜松市と畜場	浜松市長	浜松市	○直営	有	1982	1,200
名古屋市	名古屋市南部と畜場	名古屋市長	名古屋市	○直営	有	2007	1,400
京都市	京都市と畜場	京都市長	京都市	○直営	有	2017	550
大阪市	大阪市食肉処理場	大阪市長	大阪市	○直営	有	1984	1,800
堺市	なし						
神戸市	神戸市立食肉センター	神戸市長	神戸市	○直営	有	1996	600
岡山市	なし						
広島市	広島市と畜場	広島市長	広島市	○直営	有	1992	1,200
福岡市	福岡市中央卸売市場食肉市場	福岡市長	福岡食肉市場(株)	●民営	有	2000	1,080
熊本市	なし						

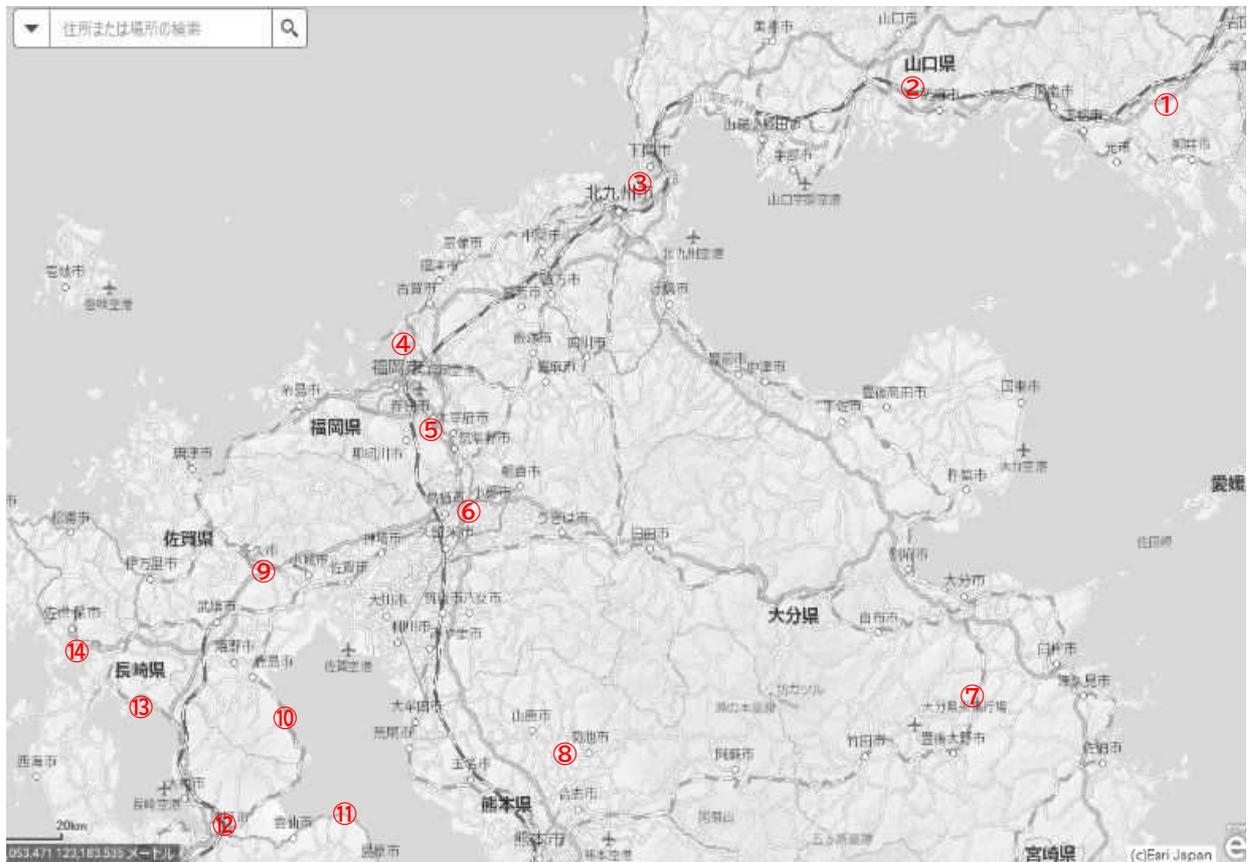
・設置者が政令市のと畜場:12市

近隣のと畜場

1 近隣のと畜場概要

No	県	と畜場名	設置者	所在地	開設年	許可件数(頭/日)		
						大動物	小動物	換算頭数
1	山口	周東食肉センター	市町村	岩国市	2014	30	0	120
2	山口	防府市と畜場	市町村	防府市	1962	35	77	217
3	福岡	北九州市立食肉センター	市町村	北九州市	1988	100	600	1,000
4	福岡	福岡市中央卸売市場食肉市場	市町村	福岡市	2000	120	600	1,080
5	福岡	九州協同食肉(株)	会社	太宰府市	1983	97	300	688
6	福岡	県南食肉センター	組合等	小郡市	1992	40	40	160
7	大分	(株)大分県畜産公社	会社	豊後大野市	2016	60	560	800
8	熊本	(株)熊本畜産流通センター	会社	菊池市	2011	150	1,000	1,600
9	佐賀	佐賀県高性能食肉センター	組合等	多久市	2022	50	850	1,050
10	佐賀	太良食肉センター	組合等	太良町	1971	0	200	200
11	長崎	島原半島地域食肉センター	組合等	雲仙市	2013	10	500	530
12	長崎	日本フードパッカー株式会社 諫早工場	会社	諫早市	1988	50	780	880
13	長崎	日本フードパッカー株式会社 川棚工場	会社	川棚町	1996	0	850	850
14	長崎	佐世保市と畜場	市町村	佐世保市	2002	60	560	800

2 位置図

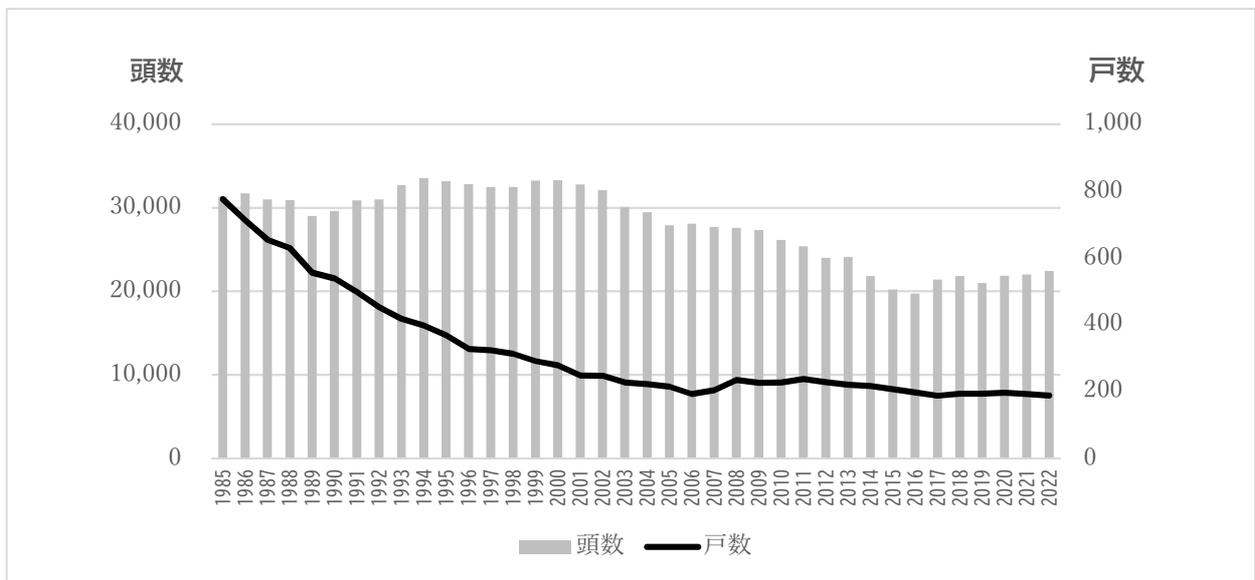


九州各県・福岡県食肉の生産動向

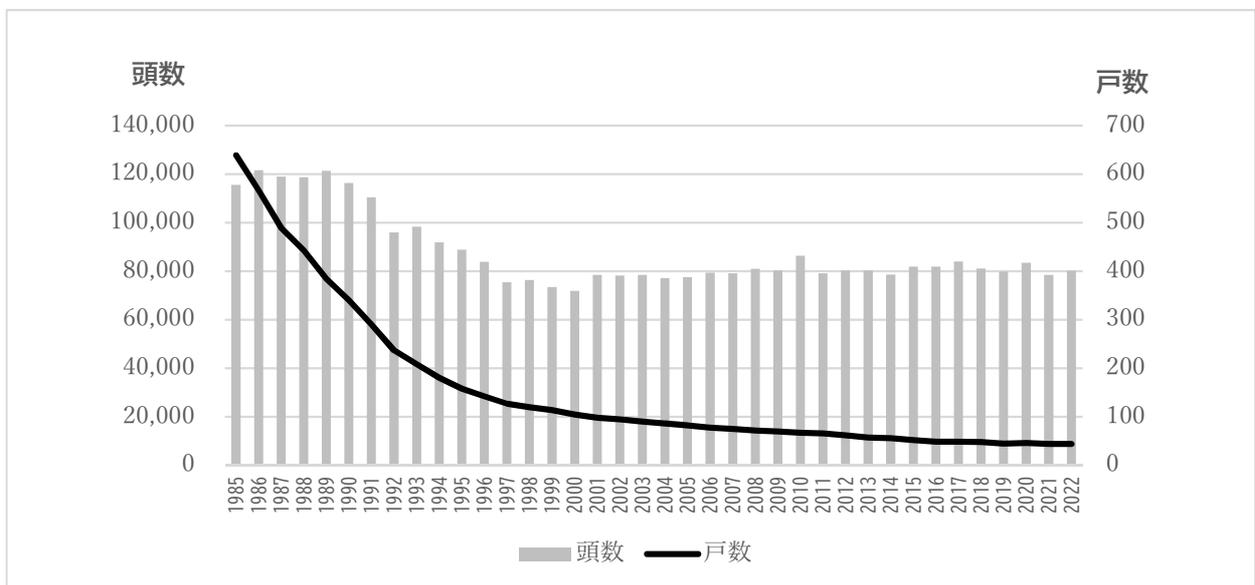
(1) 山口県・九州各県における 2022 年農業産出額 (単位：億円)

畜産地	農業産出額	畜産割合	畜産産出額	牛	豚	牛豚合計
山口県	665	31%	208	49	27	76
福岡県	2,021	20%	402	83	54	137
佐賀県	1,307	28%	363	182	51	233
長崎県	1,504	40%	596	275	136	411
熊本県	3,512	38%	1,323	452	265	717
大分県	1,245	38%	472	153	108	261
宮崎県	3,505	67%	2,349	826	520	1346
鹿児島県	5,114	68%	3,473	1,228	909	2137
沖縄県	890	46%	412	192	120	312

(2) 福岡県肉用牛飼養戸数・頭数の推移

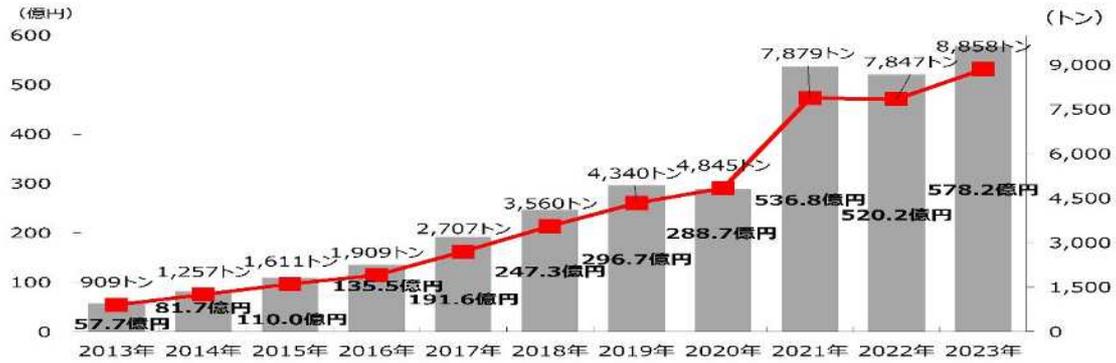


(3) 福岡県豚飼養戸数・頭数の推移



輸出動向（国レベル）

1 牛肉の輸出実績の推移



2 牛肉の国・地域別内訳 2023年

	国名	輸出額 (量)	輸出額前年比	輸出額構成比
1	台湾	95.0億円 (1,692トン)	+ 33.4%	16.4%
2	アメリカ合衆国	92.8億円 (1,143トン)	+ 1.6%	16.1%
3	香港	91.2億円 (1,816トン)	+ 10.8%	15.8%
4	カンボジア	85.3億円 (1,133トン)	+ 20.3%	14.7%
5	シンガポール	32.6億円 (544トン)	▲ 5.6%	5.6%
-	その他	181.3億円 (2,530トン)	-	31.4%
参考	EU	43.8億円 (461トン)	+ 8.0%	7.6%
-	世界	578.2億円 (8,858トン)	+ 11.2%	100.0%

注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。EUの数値については外数。

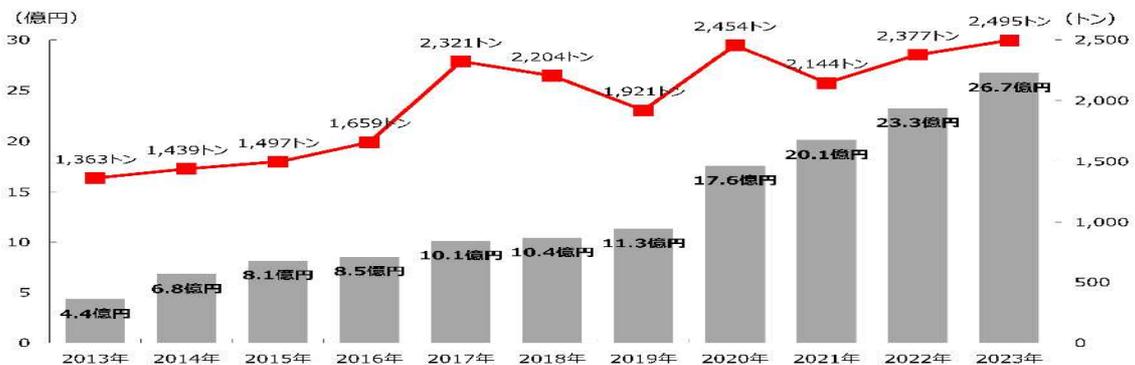
注：金額、数量には加工品を含む

注：以後、EUは2021年2月以降の統計からイギリス分が除かれている。

6

財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

3 豚肉の輸出実績の推移



4 豚肉の国・地域別内訳 2023年

	国名	輸出額 (量)	輸出額前年比	輸出額構成比
1	香港	19.6億円 (1,892トン)	+ 6.3%	73.3%
2	シンガポール	5.5億円 (421トン)	+ 58.9%	20.7%
3	マカオ	0.8億円 (63トン)	+ 20.3%	3.0%
4	タイ	0.4億円 (25トン)	+ 15.4%	1.5%
5	フィリピン	0.3億円 (21トン)	+ 91.0%	1.0%
-	その他	0.2億円 (73トン)	-	0.6%
-	世界	26.7億円 (2,495トン)	+ 14.9%	100.0%

注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

注：金額、数量には加工品を含む

14

財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

1～4 出所：農林水産省「2023年農林水産物・食品の輸出実績」より

食肉センターの老朽化度調査及び今後の整備に係る 基本調査等の結果について（令和3年度）

1 概要

施設の構造・機械設備等の老朽化度の診断、現行施設の長寿命化、施設を建替える場合の方法や費用の試算を実施したものの。

2 老朽化度診断の結果

- 構造物は、継続的に保守点検を行うことにより、あと50年以上使用が可能。
- 機器等の設備の多くは、耐用年数を過ぎているため、早い時期の対処が必要。



3 現施設設備を長寿命化する場合の改修費用

24億9,178万円	工場棟の改修、必要な機械設備等をすべて更新
------------	-----------------------

4 現施設を建替える場合の費用

※施設の規模 と畜頭数*：牛50頭/日、豚500頭/日 *国補助金の取得条件

《パターン①》 センターの空きスペースに現行施設と同型施設を建設する場合

72億1,812万円	現敷地内での施設建替え（現施設解体含む）、機械設備等の更新
------------	-------------------------------

《主な利点》・既存施設を稼働しながら建設が可能なこと。

《主な課題》・2階建て構造により、リフト等の設備面の故障リスクなど、管理運営上の問題がある。
・平屋構造に比べ、修繕費や電気等のランニングコストが大きい。

《パターン②》 新たな用地に新施設を整備する場合

86億8,605万円	現施設の解体及び新たな用地で施設を整備、ただし土地の取得費用は含まれない
------------	--------------------------------------

《主な利点》・施設内の動線、搬出入の関係、ランニングコスト面から理想的。

《主な課題》・広大な用地の確保が必要（21,000平方メートル）。

※なお、建替えを行う場合は、新施設が稼働するまでの5年間に、上記更新費用とは別に8,114万円の改修費が必要となる。

食肉センターの収支分析（R4 コンサル結果）

令和4年度（2022年度）に行った食肉センターのコンサルティングの収支分析に係る結果は、以下の通り。

1 2021年度食肉センター収支概要

単位：千円

	項目	金額	割合
収入	食肉センター使用料	79,899	50.5%
	冷蔵庫使用料	28,129	17.8%
	雑入	23,809	15.1%
	その他	26,264	16.6%
	合計	158,101	100.0%
支出	需用費	131,411	43.4%
	委託料	144,946	47.8%
	その他	26,777	8.8%
	合計	303,134	100.0%
損益		▲ 145,033	

2 収入分析

2021年度の収入158,101千円のうち、食肉センター使用料が食肉センター収入合計の50.5%を占め、さらに冷蔵庫使用料は17.8%と、両使用料で食肉センター収入合計の68.3%を占めている。

また、雑入の内訳は、利用業者へ請求している業者使用水道光熱費が主であり、部分肉加工所使用料は[]への賃貸料である。

3 支出分析

2021年度の支出303,134千円のうち、食肉センター支出における経費の上位5項目は、①上下水道（46,281千円）、②冷蔵庫枝肉入出庫等管理業務（35,693千円）、③電気（35,190千円）、④と畜解体用機器保守・清掃管理（25,608千円）、⑤工場棟営繕等管理（25,080千円）。①～⑤の経費合計167,852千円となっている。

4 収支分析

主な支出である「需用費・委託料」の2021年度の合計は、276,357千円と主な収入項目である食肉センター使用料および冷蔵庫使用料・雑入（利用業者負担分水道光熱費の収入）の合計131,837千円を144,520千円上回り、一般会計繰入金で赤字を賄う状況となっている。そのため、抜本的なビジネスモデルの見直しが求められる。

食肉センター等の強みと弱み（R4 コンサル結果）

令和4年度（2022年度）に行った食肉センターのコンサルティングのバリューチェーン上の強みと弱みに係る結果は、以下の通り。

No	項目	強み	弱み
1	生産者 (畜産農家)	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出は拡大傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡の農業産出額は低い ・他エリアと比較してブランド力が低い ・北九州市の牛の飼養戸数は6戸、豚の飼養戸数は0戸 ・食肉センターへ持ち込まれる北九州市内の生体はない
2	搬入業者	<ul style="list-style-type: none"> ・豚の搬入業者数は増加している（市内はゼロ） ・牛の処理頭数は増加傾向（2017年7,109頭→2021年9,024頭） ・豚の処理頭数は増加傾向（2017年13,989頭→2021年33,666頭） 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛の搬入業者は減少している（2010年25社→2021年15社）
3	設備・ 運用	<ul style="list-style-type: none"> ・牛の処理頭数は増加傾向（2017年7,109頭→2021年9,024頭） ・豚の処理頭数は増加傾向（2017年13,989頭→2021年33,666頭） 	<ul style="list-style-type: none"> ・バリューチェーン上、大規模化・専門特化しない限り、と畜だけでの黒字化は難しい ・HACCP対応・老朽化により、業務が増えており生産性は低下している ・設備が老朽化しており、生産性が低下している
4	従事者面	<ul style="list-style-type: none"> ・放血作業は熟練技術を要するが、その他の作業は半年ほどで習得可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の高齢化が進んでいる
5	部分加工	<ul style="list-style-type: none"> ・牛肉を██████████で加工している ・██████████持込豚は、仮設の部分肉加工場で部分肉へと加工している 	-
6	皮・内臓	<ul style="list-style-type: none"> ・と畜の副産物の牛の内臓については、ほぼ北九州市内の小売店へ卸されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・豚の内臓を9割は廃棄している。
7	流通 (小売・ 外食)	<ul style="list-style-type: none"> ・と畜の副産物の牛の内臓については、ほぼ北九州市内の小売店へ卸されている 	-

食肉センターの経済波及効果等（R4 コンサル結果）

令和4年度（2022年度）に行った食肉センターのコンサルティングの経済波及効果に係る結果は、以下の通り。

1 経済波及効果の考え方

<調査方法>

北九州産業関連表（2011年表）を用いたモデルによる推計を実施

<推計手順>

経済波及効果は、「直接効果」「1次波及効果」「2次波及効果」からなる。

直接効果	食肉センターで処理された食肉の価値を示す。食肉センターのと畜頭数、枝肉の販売単価等から価値を把握する。
1次波及効果	食肉センターで食肉が生産されることにより、関連する財・サービスの取引を通じて他の産業の生産やサービスが誘発される効果を示す（例：食肉の輸送（運輸）など、幅広い業種が対象となる）。
2次波及効果	直接効果、1次波及効果によって発生した生産を行うための労働者の賃金増加（雇用増加）による効果を示す。直接効果、1次波及効果によって発生した生産の一定割合は、労働者に賃金等として分配される。その賃金は、一定割合は貯蓄にまわるが、残りは消費にまわることになる。消費が発生すれば、その対象となる商品・サービスの生産が新たに誘発される。これが2次波及効果である。例えば、賃金が増えてお金の余裕が出来たので、市内の飲食店で外食をする（対個人サービスの需要）などである。

2 経済波及効果

14,863,945千円から食肉自体の価値である9,334,784千円を除いた5,529,161千円が、食肉センターの価値と考える。

単位：千円

直接効果	1次波及効果	2次波及効果	合計
9,334,784	3,038,048	2,491,113	14,863,945

3 食肉センターから出荷された食肉の流通額

食肉センターから出荷された食肉の市内と市外の流通額の割合は、45：55であり、市内の食肉流通額のうち約2割弱が食肉センターを經由したものと推計された。

食肉センターの役割と課題（R4 コンサル結果）

令和4年度（2022年度）に行った食肉センターのコンサルティングにおける食肉センターの果たしている役割と課題の提示については、以下の通り。

1 食肉センターの果たしている役割

No	項目	概要
1	市内小売店、市民への食肉の安定供給	北九州市内精肉店のうち、食肉センター利用業者から直接食肉を仕入れている店舗や、牛・豚の主要利用業者から市内に食肉を流通している。
2	利用業者、関連事業者の雇用創出	食肉センターは、と畜解体業者、内臓処理業者、原皮処理業者などのと畜場事業にかかわる事業者の事業活動の場である。食肉センターが存在することにより、これらの事業者の雇用が確保されている。
3	食肉センターが立地することによる経済波及効果の享受	食肉センターが存在することで食肉センター事業が生み出す需要だけでなく、原材料等の取引を通じて関連する他の産業の需要も生み出す。加えて、それらの生産活動によって生じる雇用者所得が消費支出として新たな需要を生み、生産を誘発し、北九州市経済に影響を与えている。
4	利用業者へのサービス向上	食肉センター及び併設部分肉加工所の柔軟な利用方法や取引業者との近接性は、取引業者のニーズにあわせて早く低コストで配送できるという点で、食肉センター利用業者へのサービス向上につながっている。
5	市内飲食店の競争力強化	市内でと畜することで、商品化までのリードタイムを短縮することができ、新鮮な商品を提供できる。特に牛の内臓は、他で処理されたものよりも新鮮という理由で、高価格で取引されている。

2 食肉センターの課題

No	項目	概要
1	市場拡大	牛肉・豚肉をブランド力を見た場合、九州南部はブランド力が高いが、九州北部のブランド力は低い。
2	畜産振興	市内産の牛肉の取り扱いは殆どなく、豚肉については市内における養豚農家は存在しない。そのため、貢献価値は低い。
3	利用業者	利用業者が、特定業者に限られる。
4	施設の老朽化	施設の老朽化が進んでいることから、毎年、多額の修繕費用がかかる状況
5	収支構造	「センター使用料」と「処理コスト」が見合っておらず、公的な資金の投入を前提としている。

食肉センターの再整備等に係る食肉事業者との協議経過について

◆ 北九州市の基本方針（平成29年8月当時）

- ① 民間会社が主体となって、食肉センターの運営管理を行うこと。
- ② と畜解体から内臓処理、部分肉加工までを一体的に管理運営できる経営体制を整備すること。
- ③ 豚の増頭やと畜場使用料の値上げ等により、運営収支の赤字をなくすこと。
- ④ （新たな設備投資を前提に）食肉事業者が施設の賃借料を市に支払うことで、施設償還費の一部を負担すること。

◆ 食肉事業者との協議

平成29年9月～平成30年8月

➢ 公設民営を前提に協議し、民営化の方向性について一定の同意を得る。

令和元年6月～令和3年7月

- 経営撤退のリスク低減を念頭に、民設民営（PFI方式）による経営の可能性も含め協議。食肉事業者内での一体的な経営の体制整備は引き続きの課題。
- この間、市による使用料改定のほか、食肉事業者側には厳しい経営状況や、豚の増頭等の取り組みがあった。

令和4年1月～令和4年8月

- 市から食肉事業者に老朽化度調査（R3）の結果を示して協議。
- 食肉事業者から下記の意向が示された。
- 豚のと畜解体・加工による収益を見込んだ「一体的な経営体制」を整備する。
 - 施設の整備費について一定の負担を負うとともに、ランニングコストは事業者側が負担する。
 - 施設整備（PFI導入可能性も含む）を含む「経営プラン」を策定する。

令和5年7月～令和6年3月

- 市から食肉事業者にコンサルによる調査結果（R4）を示して協議（現状分析、PFI導入後のシミュレーション、市の財政負担・事業者の経営等の課題など）。
- 食肉事業者から文書で下記の意向が示された（令和5年9月）。
- 施設のイニシャルコストは公費負担すべき。
 - 当面は、将来の発展を見据えた現施設の長寿命化で協議したい。
 - 施設改修と運営にPPP（官民連携）の導入の可能性を協議したい。
 - 食肉センター内事業者と経営一体化を目指すため協議中。実現可能と確信。
 - 最も収益性の高いパターン数値を目指し具体的な取り組みに入る。
 - 一般会計からの繰入金ゼロの実現を目指す。
- 食肉事業者において事業者間のとりまとめを実施中。また「経営プラン」の策定については、これまでに検討を継続しているものの、条件設定が幅広いこと等もあり、実効性のある提案には至っていない状況。